

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	あり
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	アンサンブル・ルヴァン Ensemble Levent (任意団体)		団体ウェブサイトURL https://ensemblevent.com/
	代表者職・氏名 代表・兼清颯		
制作団体所在地	〒 107-0062	最寄り駅(バス停)	表参道
	東京都港区5-17-2-502 シドニービル内		
電話番号	03-6260-8489		
ふりがな 公演団体名	アンサンブル・ルヴァン Ensemble Levent		団体ウェブサイトURL https://ensemblevent.com/
	代表者職・氏名 代表・兼清颯		
公演団体所在地	〒 107-0062	最寄り駅(バス停)	表参道
	東京都港区5-17-2-502 シドニービル内		
制作団体 設立年月	2014年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表 兼清颯 理事 石田彩子・古土井友輝 会計 芝宏輔		代表1名・理事2名・楽団員13名・事務局1名・ 加入には実技試験等含め、現構成員の過半数 の承認を必要とする
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	木村 美紗季
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	三輪将土
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@ensemblevent.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>【沿革】2014年に当時東京藝術大学を卒業したメンバーを中心に結成。主催公演をきっかけに“風”を意味する「Ensemble Levent(アンサンブル・ルヴァン)」と命名し、活動を本格的に開始。フレデリック・フェネル氏が提唱した「ウインド・アンサンブル」の思想に基づき、「管楽器各種1本」に「打楽器」を加えた13人管打楽室内合奏団として日本唯一の編成で活動している。金管5重奏+木管5重奏+打楽器2重奏を団体構成の基盤とすることで、独奏、アンサンブル、吹奏楽編成まで多彩な編成で公演を行なうスタイルに好評の声が多い。</p> <p>結成の翌年2015年には学校公演を開始するとともに吹奏楽部の外部指導「ルヴァン・クラブ」をスタートし、プロフェッショナルな演奏団体でありながら教育機関に根付いた団体として独自の活動を展開。現在では年間の吹奏楽部指導回数は300回を超え、「学校(や保護者)との円滑な連携」にも定評がある。</p> <p>行政からは港区、北区、文京区、銚田市といった各地域から依頼された公演を行うほか、ミューザ川崎シンフォニーホールや、サントリーホールといった文化施設での主催公演にも出演している。</p> <p>【受賞歴・採択実績等】2019年～2024年まで「港区文化芸術活動サポート事業」に6年連続採択され、助成公演として能楽堂にて尺八と木管五重奏の公演を開催する、学校公演に和太鼓を取り入れる等、“日本独自の西洋音楽団体”としてのアプローチを積極的に行なう。</p> <p>2020年 光山文化財団助成公演として採択され小編成吹奏楽による公演「Ensemble Levent 5th Concertフレデリックフェネルを讃えて」を開催。2022年には東京オペラシティにて単独公演を開催。文化庁「文化芸術活動の継続支援事業(2020年)」、「ARTS for the future! (2022年・2023年)」採択</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>【令和3年度】北区立神谷小学校・北区立柳田小学校スクールコンサート・江戸川区立西小岩小学校・福岡双葉小学校・北区立西浮間小学校・江戸川区立臨海小学校・銚田市立旭東小学校・銚田市銚田南中学校・銚田市立つばさ幼稚園・流山市立長崎小学校・江戸川区立船堀第二小学校・江戸川区立船堀小学校・江戸川区立船堀第二小学校・江戸川区立船堀第二小学校・江戸川区立篠崎第三小学校にて実施(15校20公演)</p> <p>【令和4年度】江戸川区立東小松川小学校・江戸川区第四葛西小学校・江戸川区立西小岩小学校 & 下小岩小学校・北区立王子小学校・江戸川区立東小松川小学校・江戸川区立船堀小学校・北区立神谷中学校・江戸川区立船堀第二小学校にて実施(8校10公演)</p> <p>【令和5年度】江戸川区立船堀小学校・江戸川区立船堀第二小学校・東京都立中野工業高等学校・北区立赤羽小学校・北区立八幡小学校・北区立稲田小学校・開智望中等教育学校にて実施(7校11公演)</p> <p>【令和6年度】 令和6年度文化庁巡回公演事業実施団体として関東圏(Cブロック)26校にてワークショップ及び本公演(52公演)を実施。そのほかの学校公演も含めると年間62公演以上(予定を含む)となり、年間学校公演数としては過去最多となる。(34校62公演) *一部実施予定を含む</p>		
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>【平成30年】綾瀬なないろ園“成人を祝う会”にて演奏実施</p> <p>【令和元年】北区立あすなろ福祉園にて実施</p> <p>【令和3年度】東京都立王子特別支援学校にて実施</p> <p>【令和6年度】令和6年度文化庁巡回公演事業として愛育学園・千葉大学教育学部附属特別支援学校・都立八王子東特別支援学校の3校にてワークショップと本公演(計6公演)を実施。</p> <p>特別支援学校の実情に合わせてプログラムや編成の創意工夫したり「楽器に触れる体験」なども交えて聴覚以外(触覚・視覚)での鑑賞アプローチも積極的に活用するなどして、好評を得ている。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/qunZVcssBVA</p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	あり			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名 Ensemble Levent】		
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	変幻自在！？管打楽器アンサンブルの七変化 ～文化の交わる音楽会～			
企画のねらい	令和6年度と同巡回公演事業として採択いただいた同企画は大変ありがたいことに26校もの学校様からお選びいただける内容となり、実施させていただいた各校からもワークショップ・本公演ともに「過去鑑賞した学校公演の中でもとても良かった」といったありがたいお声をいただける「手応えある企画」となりました。今年度は前年度そうして現場に評価いただいた内容については踏襲しつつ、当団体が子どもたちに“今届けたい音楽”も加え、より洗練・充実させた企画として実施いたします。具体的には、「日本発の西洋音楽団体」として当団体が2024年に若手作曲家中村匡寿氏に委嘱した西洋管楽器と和太鼓によるオリジナル作品を加え「今を生きる音楽家の音楽」を伝えるとともにグローバル化するこれからの世界を見据えつつ西洋との対比の中で「日本」を感じてもらえるプログラムとします。			
演目概要・演目選択理由	たった独りの和太鼓で始まるコンサート。各奏者による独奏曲から、打楽器二重奏、木管・金管五重奏と曲目ごとに異なる編成でお届けする本プログラムは、クラシック音楽を初めて生で聞く子ども達でもそれぞれの楽器の音をわかりやすく認識でき、各楽器が重なり合うことで生まれるハーモニーも視覚的に捉えることのできるコンサートです。大人数のオーケストラもいけれど、一つ一つの楽器が持つ独特の“音色”やアーティストの人間性＝“個性”をもっと直接、感じてほしい。編成(人数)が変わることで、浮き彫りとなるそれぞれの音楽の魅力を伝える演目はまさに管打楽器アンサンブルの「七変化」です。 →【別添あり「No.2演目選択理由」】			
児童・生徒の参加又は体験の形態	私たちはこれまでの学校公演(芸術鑑賞会)プログラムにおいて「子どもたちにより記憶に残る時間にしてほしい」という観点から「ともに創る」をテーマに掲げ、単なる体験だけでなく、時には企画立案そのものにも参加できる「ともに創るコンサート」を学校の先生や生徒さんたちと創り上げてきました。本企画でも、各学校の実態に沿った体験やプログラムを盛り込むように可能な限り楽曲を工夫するとともに《指揮者体験》《生徒が当日(拍手で聞きたい方)を決める演目》《合唱or合奏共演(選択式・任意)》《コールアンドレスポンスからのシングシングシング(一種リトミック的なやり取り)》、《校歌演奏(or共演)》を取り入れ、コンサートを「ともに創った」実感を得られるようにします。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	指揮者体験3名,その他共演は該当者	
		鑑賞人数目安	1～500名程度まで	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	～独りからアンサンブルへ～ 《和太鼓独奏》紅炎 / 永野雅晴 作曲 《管打楽器13重奏》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲 《木管5重奏》主よ、人の望みの喜びよ / J.S.バッハ 作曲 《金管5重奏》アメージング・グレース / 作曲者不詳 《指揮者体験》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲 《管打楽器13重奏》パンチネロ / アルフレッド・リード 作曲(小学校低学年の場合:春の猟犬/アルフレッド) →【休憩】 《木管・金管楽器独奏》サキソフォビア/ヴィードフ or トランペット吹き休みの休日(トランペット)/アンダーソン(当日選択式) 《管楽6重奏+和太鼓》獅子踏書(ししとうせい)～新緑に渡る獅子の舞～/中村匡寿 《打楽器二重奏》カムシン/セゾルネ or Double/永野雅晴 《共演(任意)》合唱もしくは吹奏楽部との共演(選択例) Believe, Tomorrow等 《管打楽器13重奏》シング・シング・シング / ルイ・プリマ 作曲 【アンコール】各校校歌・ラデツキー行進曲 *下線の楽曲は当団体オリジナル委嘱作品(2024年)となります 公演時間 90 分			
出演者	石田彩子(フルート)、佐竹真登(オーボエ)、西澤いずみ(クラリネット)、大内秀介(ファゴット)、山崎憂佳(サクソフォーン)・古土井友輝(トランペット)・重井吉彦(トランペット)・堀口はるな(ホルン)、竹内優彦(トロンボーン)、兼清颯(ユーフォニアム)、芝宏輔(チューバ)、永野雅晴(打楽器・和太鼓)、永野仁美(打楽器) *詳細プロフィール別添資料あり→【別添あり「No.2別紙メンバー表」】			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	兼清颯(ユーフォニアム・企画代表) 東京芸術大学卒業。NPO法人音楽ネットワークのオーディションに合格し文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」にユーフォニアム奏者として参加。Ensemble Levent代表として令和6年度巡回公演事業を始め多くの企画を生み出し実現している。また自身が学校での勤務経験を持つことから学校現場にも精通しており教員・保護者・生徒とのコミュニケーション力にも定評がある。 石田彩子(フルート) 東京芸術大学卒業。第2回アジアフルートコンクール第1位(日本人初)を獲得し、ソリストとして活動中。自作曲の作曲等も多数手がけ、2023年には自作曲のみによる個展公演を東京都内ムジカーザにて開催し成功を納めた。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 13 名 スタッフ: 3 名 合計: 16 名	運搬	積載量: 0.6 t 車長: 3.24 m 台数: 2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度		
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	8:50	9:00-11:00		13:30-15:00	10~15	15:00~16:00	16時30分	
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大幅な変更は認め られません)</small>	6月		7月		8月		9月	
	15日		10日		0日		20日	
	10月		11月		12月		1月	
	20日		20日		20日		20日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		125日
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) <small>※採択決定後、図面等の提出をお願いします。</small>								
	著作権、上演権利等の許諾状況		各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否 該当あり		該当コンテンツ名 獅子踏青		許諾確認状況 採択後手続き予定	
該当事項がある場合		権利者名 JASRACに申請		許諾確認状況 採択後手続き予定				

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	あり		
【公演団体名 Ensemble Levent 】			
ワークショップのねらい	<p>管楽器の音色は、意外と子どもたちには認識しづらく演奏会の中でも「今何の楽器の音が聞こえているのか」を判断することは案外大人であっても難しい部分です。特に同じ音域になった場合が難しく、例えばトランペットとオーボエはその音の鳴りはじめを切り取り、鳴っている間のみを切り取って再生すると全く音の区別ができなくなるそうです。(参考;芥川也寸志著「音楽の基礎」)</p> <p>一人一人、人間の声帯が違うように、管楽器にも音を発音する「仕組み」があり、それによって大きくは「金管楽器」「木管楽器」と分類されます。それぞれ“なぜ音が出るのか”や“音の正体”に焦点を当て、体験や実演を交えたワークショップを行うことで、子どもたちに楽器や私たち奏者を身近に感じてもらうことをねらいとしています。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	<p>1～100名程度 *上記以上の人数の場合も応相談にて実施可(最大500名)</p>
ワークショップ実施形態及び内容	<p>音の正体を知る。～楽器による発音の違い～ 管楽器奏者3名・打楽器奏者1名・ピアニスト1名の5名を基本とした編成 <形態> →音楽室または体育館にてアウトリーチ形式でのワークショップを行います。 一方的な講演形式ではなく、双方向性(アクティブラーニング)も意識し、子どもたちがより音楽、楽器、アーティストを身近で感じてもらえるようにします。また、指導案を事前に学校の先生方に伝えることで、先生方にとっても興味を持って関わりやすいワークショップをつくります。</p> <p><内容> ①導入(楽団紹介とアイスブレイク)…オープニング『水上の音楽(G.ヘンデル)』等演奏後、団体について簡潔に説明し、ワークショップについて大まかな流れとねらいについて触れます。また、本公演への橋渡しおよび奏者との交流のサインとして指で団体名「Levent」の「L」と「V」をかたどった形を覚えてもらいます。(アイスブレイク) →【別添あり】【別添】No.3ワークショップの実例】</p> <p>②ホース体験…「音の正体が空気の振動である」ということと「管楽器がまさに“管”である」ことを金管楽器のマウスピースをつけたホースを握ってもらうことで体験してもらいます。(体験生徒は最大50名ほど、大人数の場合は先生方にも体験してもらい生徒にフィードバックをしていただくことで共有する手法を取ります)手に伝わる振動が音域や音量によって変化することも感じてもらいます。</p> <p>③金管楽器の発音の仕組みについて…金管楽器の実演後、金管楽器の発音の仕組みをレクチャーします。唇だけの振動(＝バズィング)を全員で体験してもらい、奏者が、マウスピースだけで出す音、→楽器をつけた音と変化させて、音が鳴る仕組みを見てもらうとともに、実際に「生徒用のマウスピース」を用意し体験(最大30名程度)してもらいます。(上手に音が出る子には、実際に体験用の楽器も渡します。)</p> <p>④打楽器について…タンバリンやトライアングル、小太鼓など小中学生にも馴染みのある楽器の独奏曲を披露します。</p> <p>⑤木管楽器の発音について…木管楽器の実演後、木管楽器の発音の仕組みをレクチャーします。小学校の場合はリコーダーが最も身近な木管楽器であることに触れ、続いて体験用の「ストロー」を使って全員に木管楽器の「リード」の仕組みを理解してもらい、実際に音が出るかを実践したのち実演を行います。</p> <p>⑥実演・まとめ…実演の後、本ワークショップの総括と、何に注目して本公演を聞いてほしいかを伝えます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>各学校のピアノをお借りさせていただきたいです。 ピアノをお借りするにあたり、可能であれば事前に調律をしていただくことで演奏自体の質が上がるため、より良いワークショップの実施に繋がります。調律等が難しい場合やピアノを使用できない場合はピアノを含まない編成等にて対応も可能ですので、ご相談ください。</p> <p>上記のワークショップのほか、その学校の実態に即した形で編成や内容を柔軟にアレンジさせることが可能です。その学校に必要な指導(歌唱、器楽、吹奏楽等)を考慮したワークショップの内容にいたします。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 Ensemble Levent 】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 【本事業を通して伝えたいこと】 日本には多くのプロフェッショナルオーケストラ等の団体がありますが、当団体は最大編成でも「13名」というその団体の中では小規模な編成を持ちます。「各楽器原則1本ずつ」としたことで“個”が常に目立つ編成というのは他団体と比しても珍しく、それ故に奏者には高い演奏能力はもちろん、アーティストとしての個性も求められることとなります。</p> <p>ロボットやAIが発達し「人間(自分)とは何か?」という問いを今後間違いなく突きつけられることになる今の子どもたちにとって、そういった生身の人間の「個」を感じる機会というのは、間違いなく生きる上での糧になると確信します。(「個」の魅力と人間力) その上で、個を尊重しつつも他者と協調することで(単に統制された「集団」とは異なる)より高次元な「弁証法的集団」が生まれるということは、ウィーンフィルをはじめとした国外のオーケストラによっても証明されており、それこそが人間にしか出せない「1+1=10」の魅力でもであると感じます。(他者と協調することによるチーム力の最大化) また今年度の特徴としてクラシック音楽という西洋の文化を中心に扱いながらも対比・融合的に日本の楽器や音楽を取り上げることで、日本文化についても比較的子ども達に感じてもらうことを狙います(日本文化を見つめる)</p> <p>実演する中で上記のような哲学的な問いを押し出すことはありませんが、これらの想いを「13人によるアンサンブル」を通して伝えることで、音楽の魅力を感じてもらおうと共に子どもたちの生きる力の一助になればと思います。学校には、音楽が好きな子も、そうでない子(難しいと感じている子)もいますが、音楽ではなく“人”そのものの魅力を伝え「この人が好き」と思ってもらえる公演創りを行うことが、結果的により多くの子どもに音楽文化に親しむ土壌を育ててもらえるものと考えます。</p> <p>【学校現場に適した団体としての強み】 これまで大切にしてきた学校と“ともに創る”姿勢や企画内容を学校の先生方に評価いただいたことで、2024年度(令和6年度)に本事業に初めて採択いただき、ありがたいことに初年度から26校の学校様から第一希望としてお選びいただきました。先生方にその理由をお聞きすると、 ①少人数の団体であるため、<u>児童数が600名以上など体育館の収容率が高くなってしまいう学校や数十名規模の小規模な学校までどんな学校でも実施しやすいこと</u> ②校内に大型トラックを入れることができない学校(特別支援学級など)でも公演ができること ③奏者の年齢が子どもたちに総じて近いため、<u>親しみをもちやすかったこと</u> といった新しく見えてきた私たちの強みもあり、現在の学校が抱える様々な実情(ニーズ)に当団体の特徴がマッチしていると感じ、本事業に対して当団体が果たせる役割も大きいのではないかと考えております。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 代表自身が学校での勤務経験を持ち小学校1年生から高校3年生まで全学年の授業経験があることが、下記二つの「事業を効果的かつ円滑に進めるための工夫」につながっています。 <u><学校に即した企画の立案></u> 学習指導要領を含め、教育について知識だけでなく経験として知っていることで、より年代ごとの教育課程に沿った内容で公演やワークショップを開催・実施することができます。 <u><円滑なコミュニケーションと安心できる配慮></u> 当団体は吹奏楽部の外部指導員として携わるメンバーが多いなど教育現場に近い団体です。日常的に学校の先生方と接していく中で“コミュニケーション”について最重要視しており、各メンバー一人一人が教育的配慮を欠かさないことで、どの部分を切り取っても先生方に安心して任せていただける雰囲気づくりを行なっています。</p> <p>なお、2024年度の巡回公演事業においては事務局と学校による適宜連絡のほか ①年度当初のオンライン等による顔合わせ・ご挨拶状の送付→②公演内容についてまとめた「公演依頼書」の送付→③公演直前の確認のご連絡(お電話)→④公演→⑤実施後のヒアリング を行い、連携を密に進めたことで事業自体も円滑に進んでおり、先生方の理解を得られた状態で公演を行えることでより効果的な事業の実施に至っているとも感じます。 また、<u>団体HPにも本事業についての情報を常に更新して定期的に発信</u>することで、当該校への公演に向けた機運醸成や当該事業の周知を積極的に行ないました。</p>

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	Ensemble Levent 】
演目概要・演目選択理由	<p>【前半】～独りからアンサンブルへ～</p> <p>《和太鼓独奏》紅炎 / 永野雅晴 作曲 …和太鼓奏者として林英哲氏のツアーにも帯同する当団体打楽器奏者永野雅晴による完全自作曲。「日本人である私たちが西洋音楽を届ける」というこのコンサートをあえて「和楽器」から始めることで、子どもたち自身も“日本人の音楽”を思い出す(知る)狙いで選択した。</p> <p>《管打楽器13重奏》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲 …1曲目から一転し、全員で吹奏楽曲として有名なコンサートマーチを置く。爽やかなコンサートマーチは年齢問わず、親しみやすく、ウインド・アンサンブルの魅力伝えるにも十分な一曲である。</p> <p>《木管5重奏》主よ、人の望みの喜びよ / J.S.バッハ 作曲 …クラシック音楽の父。バッハの響きを木管5重奏でお届け。木管5重奏は発音が違う楽器が集まって構成されており、楽器による音色の移り変わりがバッハの音楽とマッチしている。</p> <p>《金管5重奏》アメージング・グレース / 作曲者不詳 …Tp.ソロによる独奏に続いて、ディキシー風にアレンジされたこの楽曲は、世界的金管5重奏団「カナディアンプラス」の編曲。金管楽器ならではの美しく気持ちの良いハーモニーが響く。</p> <p>《指揮者体験》アルセナール / ヤン・ヴァン・デル・ロースト 作曲 …ここで冒頭にお届けした『アルセナール』による指揮者体験を行う。シンプルなマーチ(2拍子)のため、音楽に苦手意識がある子どもでも挑戦しやすい。テンポや強弱といった子どもごとの変化もわかりやすく出するため、指揮者体験が盛り上がりやすい。</p> <p>《管打楽器13重奏》パンチネロ / アルフレッド・リード 作曲 …当団体が大切にしている作曲家リードの楽曲を公演のメインに据える。素晴らしいオーケストレーションと、充実した音楽は感受性豊かな時期にこそ届けたい「本物の音楽」です。</p> <p>【後半】～各奏者の妙技と、和を感じる西洋音楽～ 下記2曲から当日拍手によって子どもの聞きたい曲を決めて演奏します。</p> <p>《トランペット独奏》トランペット吹きの休日 / アンダーソン …華やかなトランペットの音色と馴染みのあるメロディが特徴のアンダーソンの代表作。 or 《サクソフォン独奏》サクソフォビア/ウィードフ 作曲 …「サクソ恐怖症」という不思議なタイトルのついたこの曲。曲名とはうらはらに、サクソフォンのキャラクターが存分に発揮され、演奏中生徒の中に入っていき演出では子どもたちもつい笑顔になる。</p> <p>《管楽6重奏+和太鼓》獅子踏青(ししとうせい)～新緑に裸ぐ獅子の舞～ / 中村匡寿 …2024年に当団体が若手作曲家の中村氏に委嘱した作品(2024年サントリーホールにて初演)。本来は木管5重奏と尺八による楽曲だが、本事業では尺八のパートをソプラノサクソで演奏する。西洋楽器と和太鼓による東西の融合による独特の響きはグローバル社会を生きる子どもたちにどう聞こえるのか。</p> <p>《打楽器二重奏》ハムシン/セジオルネ or Double/永野雅晴 …打楽器2名によるアンサンブル。マリンバを前後に挟んで演奏する「ハムシン(“砂嵐”の意)」または2台のスネアドラムを目まぐるしく演奏する『Double』のいずれかを学校(小中)ごとに演奏する。</p> <p>《管打楽器13重奏》シング・シング・シング / ルイ・プリマ 作曲 …プログラムの最後は和太鼓とは打って変わって「ドラム」の活躍するこの曲は、思わず体が動き、手拍子したくなる。音楽の三要素の中でも特に「ビート(拍)」が国境を超えること、国ごとに異なる音楽の魅力を感じて、プログラムを締めくくる。</p> <p>【アンコール】各校校歌・ラデツキー行進曲</p>	 <p>体育館後方をステージにし後方の生徒の近く演奏</p>  <p>客席(生徒の中)に入っていき演出</p> <p>(演奏時間:約90分)</p>	

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	Ensemble Levent	】
出演者		プロフィール(概要)		
	石田彩子(フルート) 東京芸術大学卒業。第2回アジアフルートコンクール第1位(日本人初)。自作曲の作曲等も多数手がける。			
	佐竹真登(オーボエ) 日本フィルハーモニー交響楽団オーボエ奏者。第85回日本音楽コンクール第2位。			
	西澤いずみ(クラリネット) 東京芸術大学を経て同大学院修了。卒業時に学内で選抜され第32回ヤマハ新人管打楽器演奏会出演			
	楠木慶(クラリネット) 東京芸術大学音楽学部卒業。2014年日本フィルハーモニー交響楽団に入団。現在、副首席クラリネット奏者を務める。第33回日本管打楽器コンクール第2位。			
	大内秀介(ファゴット) 第36回日本管打楽器コンクールファゴット部門第1位及び文部科学大臣賞、東京都知事賞、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団特別賞を受賞。日本フィルハーモニー交響楽団ファゴット奏者を経て、現在はNHK交響楽団契約団員を務める。			
	山崎憂佳(サクソフォーン) 東京芸術大学卒業。第34回高知音楽コンクール 第2位。自身が主宰するユニット「海藻姉妹」での活動も多数おこなう。			
	古土井友輝(トランペット) 東京芸術大学卒業。フリーランスのトランペット奏者として都内のオーケストラをはじめ多くの団体へ参加している。			
	重井吉彦(トランペット) JEJU国際コンクール金管5重奏部門第1位。東京フィルハーモニー交響楽団を経て2021年後期より読売日本交響楽団トランペット奏者。			
	金子美保(トランペット) 東京芸術大学卒業後、スペインのソフィア王妃高等音楽院修了。Reinhold Friedrichと Manuel Blancoのクラスで学び優秀賞を受賞。第10回関西トランペットコンクール課題曲部門、オーケストラスタディ部門両部門第1位。第18回東京音楽コンクール入選。第90回日本音楽コンクール第2位。			
堀口はるな(ホルン) 東京音楽大学を経て、同大学院を修了。大学在学中、学内のオーディション合格者によるソロ・室内楽定期演奏会、管打楽器専攻生による卒業演奏会に出演。セイジ・オザワ松本フェスティバルOMF室内楽勉強会～金管アンサンブル～、ローム・ミュージックファンデーション音楽セミナー2017に参加。				
竹内優彦(トロンボーン) THE ORCHESTRA JAPAN 団員。Trombone Quartet 虎徹 Kotetsuメンバー。横浜市立戸塚高等学校音楽コース特別非常勤講師(トロンボーン講師)。				
兼清颯(ユーフォニアム) 東京芸術大学卒業。第21回コンセール・ヴィヴァン新人オーディション優秀賞受賞。NPO法人音楽ネットワークのオーディションに合格し文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」にユーフォニアム奏者として参加。Ensemble Levent代表。				
芝宏輔(チューバ) 東京芸術大学卒業。卒業時学内にて選抜され第31回ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。第30回市川新人コンクール管打楽器部門優秀賞受賞。				
永野雅晴(打楽器・和太鼓) 東京芸術大学を経て同大学院修了。Italy percussion competitionスネアドラム部門1位無しの2位。第12回現代音楽コンクール「競楽」において、審査委員特別奨励賞を受賞。林英哲風雲の会としてヨーロッパツアーに参加				
永野仁美(打楽器) 東京芸術大学を経て同大学院修了。音楽療法を学び、対象者に寄り添った音楽の使い方を自らの演奏活動に取り入れるなど、「人の為の音楽」を追求すべく研究・活動を重ねている。				

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.3

【公演団体名

Ensemble Levent

】

(様子1) 団体名を覚え親んでもらうための工夫 (上WS・下本公演)



(様子2) ホースを触ってもらう体験

(様子3) マウスピース体験・楽器体験

ワークショップ
実施形態及び内容



(様子4) 「音」に触れる *特別支援学級など

